

生物多様性地域戦略に関連する第2次日野市環境基本計画の施策

目標	施策の方向	施策(大区分)	施策(小区分)	具体的な取組
1.みどりの原風景をつなぐまち	自然度の高いみどりの保全	丘陵地・斜面緑地等の保全	民有緑地の公有地化の推進	一定の予算確保を継続し、残すべき民有緑地の公有地化を計画的・選択的に推進する。環境緑化基金なども引き続き活用する。
			緑地管理協定等による保全の推進	緑地信託制度など、緑地所有者との管理・利活用に関する協定による緑地の保全を図る。
			市民緑地活動の積極的支援	ひの緑のトラストなど、市民の緑地保全活動の普及・啓発を積極的に支援するとともに、市民とともに有効的な方法について検討し、緑地の保全を図る。
			みどりの景観の保全・創出	残された樹林地を活かした周辺の一体整備を行い、丘陵と一体的なみどりの景観を創出する。
			“残したいみどり”の選定	市民のふるさとの風景として残したいみどりを選定し、優先的な保存を検討する。
			広域的な緑地の保全の推進	関連自治体との連携により、広域的な緑地(多摩丘陵・三浦丘陵)の保全を図る。
		里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築	ボランティアによる里山の管理と活用	雑木林ボランティア講座を継続し、講座修了生等の維持管理への派遣制度を検討する。また、維持管理活動を活かして里山文化の継承や環境教育等を行うような、全市的な仕組みを構築する。
		動植物の生息・生育空間の保全	動植物の生息・生育状況の把握	市民とともに、市内の緑地における動植物調査を定期的に行い、動植物の生息・生育状況の実態を把握する。
			生態系保全としての環境保全方策の検討	特定種のみでなく、生態系を保全していく観点から、関係課が連携し、里山や用水路などの環境の保全に努める。
	農地の保全と活用	農のある風景の保全	水田の保全	援農ボランティアや用水守を活用し、水田を保全する。また、黒米等の日野ブランド米の生産を目指し、稲作が生業として成立するような仕組みを構築する。
			市民農園等の拡充	低利用の宅地化農地を市民農園として利用していくほか、生産緑地でも開設可能な農業体験農園として活用するなど民設の農園も増やすことで、市民の農業体験機会を創出するとともに、農地保全に努める。
			環境教育の場としての農地の活用	学校と農家の連携により学童農園を充実させる。
			援農ボランティア制度の拡充	援農を希望する農業者に対して、JAのコーディネートのもと援農ボランティアを派遣しているが、野菜生産農業者だけでなく、果樹農業者や稲作農業者等へも派遣することにより、幅広く営農を支援していく。
			農地の保全・活用のための制度の充実	農業保全地域指定、農業保全基金、「美(うま)し日野農地JA賞」表彰等、農地を守り活用する制度を充実する。
		環境に配慮した農業の推進	生物多様性に配慮した農地の運用	所有者の協力と理解を得ながら、水田への冬期の湛水や耕作をしていない時期における植物(花など)の栽培、畦畔(あぜ)の適切な維持管理など生物多様性に配慮した農地の運用を促進する。
			環境保全型農業の普及	農業の持つ物質循環機能を生かし、化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を普及させる。エコファーマー制度や日野産野菜の積極的な利用により、環境保全型農業が優先されるような仕組みづくりも行う。
		地産地消による生産流通システムの確立	地元野菜にふれる機会の充実	農産物の流通过程におけるCO2排出量を削減するための「市(いち)」や直売所など既存の機会や施設を活かし、さらにスーパーや駅前など、あらゆる場所で地元野菜を購入できるようなネットワークを構築する。また、日野産野菜を積極的に購入してもらうための制度など、ソフト的な取組も検討する。
			地元野菜の供給の推進	学校給食をはじめ、公共施設、大手事業所などに対する地元野菜の供給体制を構築する。
	まちなかのみどりの創出・保全	公園緑地の整備	「緑地」としての公園の整備	地域に残る自然や地域性を考慮し、「緑地」としての公園整備を推進する。

目標	施策の方向	施策(大区分)	施策(小区分)	具体的な取組
		民有地等の緑化	地域住民の意向を取り入れた公園づくりの推進	公園の整備の際には、必要な機能を確保しながら、地域住民の意向を取り入れた公園づくりを推進する。
			公民協働の考え方に基づく施設管理	引き続き、市民・事業者・市民団体・市などによる協働体制を整え、公園の計画、整備、維持管理等を含む緑地の保全活動を推進する。
			生け垣緑化の促進	ブロック塀撤去と生け垣設置補助に関する実態を把握し、より使いやすい補助制度を検討する。また、地域で生け垣緑化に取り組むモデル事業などを実施するとともに、地区計画で生け垣設置を推奨する。
			生け垣の普及方策・管理体制の検討	管理しやすい樹種のPR・生け垣緑化コンクールなどの生け垣の普及方策や、所有者以外の市民ボランティア等による管理体制を検討する。
			駐車場緑化の促進	駐車場の所有者や管理会社、市民に対し、緑化の効果や管理しやすい施工方法などの情報提供を行う。また駐車場所有者(市民及び事業者)は、敷地内の緑化に積極的に取り組む。
			大規模住宅団地等の樹林地の保全	昭和30～40年代に建設された大規模住宅団地等の樹林地について、住宅団地の建て替えや駐車場整備の際に保全するよう、事業者に働きかける。
			地域のみどりの保全・創出の促進	地域住民自らの発意による地区計画・緑地協定の締結を促進する。
		歴史・文化を伝えるみどりの保全	巨樹・巨木、屋敷林、継続櫨ぐね、社寺林等の保存と管理体制の検討	民有地における歴史的価値のある樹木、樹林等を公共・民間施設緑地として位置づけ、保存樹木・樹林や特別緑地保全地区としての指定、地区計画の活用など、市民とともに保全方策について検討する。
			歴史を伝えるみどりの整備	個人の管理負担を減らし、歴史・文化的景観を有するみどりを保存していくための管理体制を検討・構築する。
		公共施設の緑化	農の発信拠点として、東光寺上地区に整備する(仮)ファーマーズセンターに桑を植栽すること等により、日野の養蚕の歴史を紹介する。	農の発信拠点として、東光寺上地区に整備する(仮)ファーマーズセンターに桑を植栽すること等により、日野の養蚕の歴史を紹介する。
			まちなみ等安全緑化の推進	まちなかの角地や道沿いを低い植え込みにするなど、施設と一体となった安全改修を行うことで、明るく見通しの良い施設整備を推進する。
			公共施設内の緑化の推進	公共施設(学校を含む)において、モデルとなる屋上緑化・壁面緑化などの緑化を積極的に推進する。
		協働によるみどりの保全・創出	駅前公共スペースの緑化の推進	日野市内の「顔」としての駅前公共スペースの緑化による景観整備を推進する。
			みどりに関する普及啓発	農地を含むみどりの保全・創出の大切さや、みどりの良さを市民と協働で整理し、市民・事業者にPRする。また、窓口での相談や、緑化に関する講習会等を実施する。
			協働によるみどりの実態把握	市民参加のもと、市域の植生や街路樹・生け垣等の樹種、みどりの連続性、外来種の侵入状況などの現状を調査してマップを作成し、今後の取組の基礎資料として活用する。
			協働による活動の仕組みづくり	落ち葉等が苦情対象となる街路樹について、近隣住民によるアダプト制度や、近隣住民の意見も取り入れた樹種の選定(新規道路)、市民団体による落ち葉掻きボランティアなどの新たな管理体制を検討する。
2.水文化を伝えるまち	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討	命名権(ネーミングライツ)等の導入の検討	市民団体や事業者、市民に、公園・緑地・樹木などの命名権(ネーミングライツ)を販売するなど、みどりの保全・管理活動の財源を確保するための方法を市・市民・事業者が共に検討する。
			「(仮)みどりの助け合い活動」の推進	みどりの保全をはじめとする環境配慮行動を、助け合いを通して継続的に推進するために、ポイント制度や福祉活動との連携の仕組みを検討する。検討にあたっては、市民の理解と協力を得て、企業のCSR活動と連携を図っていく。
			－	市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。
			丘陵地の雑木林の保全	地下水かん養の観点から、雑木林の保全・維持管理を推進する(目的に沿った管理方法の選択)。
			雨水浸透の推進	宅地内のコンクリート被覆の最小化や、既存施設への雨水浸透施設導入を促進するため、各種PRや保全活動との連携など意識啓発を進める。新築や増改築時の雨水浸透施設の設置・維持管理指導を継続するとともに、重点地区を設定し、PRや導入補助等を強化する。また、公共施設等への雨水浸透施設や透水性舗装の導入を推進する。

目標	施策の方向	施策(大区分)	施策(小区分)	具体的な取組
		用水の保全・活用	(仮)用水路改修・補修計画の策定	用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画を作成する。
			用水の価値の保全・創出	水辺の生態系保全や、親しみやすい水辺の保全、緑と清流のまちにふさわしい景観の保全の他、本来の役割である農業用水としての保全や、公園の整備改修と併せた親水空間としての利用、小水力発電による啓発など、様々な用水の価値を保全・創出する。
			年間通水の継続実施	用水の価値を守り「水の郷」にふさわしい水辺環境を守るために、年間通水を実施する。
			用水のある風景に配慮した都市整備の推進	区画整理事業等を実施する際に、用水沿いの緑地の確保や暗渠化の回避などを行い、用水のある風景の保全に配慮する。
		河川の保全	程久保川をモデルとした保全策の検討	市管理の程久保川上流域をモデルに、今なお残る自然護岸の持つ水源かん養能力を活かし、「川らしい川」を将来に残すための保全策の検討を行う。
		湧水・地下水の保全	土地の改変に係る湧水・地下水への影響の低減	清流保全条例に基づき湧水や地下水脈に影響のある工事や土地利用を行う場合は、湧水等に配慮するよう指導する。また、新たに開発・建築等を行う場合は、湧水などを活かしたデザインを取り入れるよう指導する。
			地下水揚水量の把握	法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。
	雨水浸透・貯留利用の推進	雨水浸透・貯留施設の設置促進	大規模な雨水浸透・貯留施設の設置促進	団地の建て替えや公園・グラウンド等の整備に伴う地下等への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけ、都市型洪水対策や非常時利用、河川流量の確保に活用する。
			家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。
		地域における雨水利用の推進	雨水利用モデル事業の検討・実施	公共施設を起点として、貯留した雨水を地域で有効活用し、さらなる環境保全につながるようなモデル事業を検討・実施する。
	水辺に親しむ空間づくり	親しめる水辺の創出	遊び、学べる水辺の創出	生物が観察できるワンドや「水辺の楽校」の整備など、河川や用水に近づいて遊んだり学んだりできるようなスポットを創出する。
			周遊できる水辺の創出	景観等に配慮した親しみやすく、心安らぐ水辺を整備し、用水の歴史・文化や水田と用水の織り成す日野の原風景を保全し、その重要性を広く伝える。また、河川敷に下りられる場所を増やし、川辺を周遊できるような散策路を整備する。
			水辺づくりの提案	現在の河川構造を見直し、生態系保全や親水性、景観に配慮した近自然河川工法に基づく水辺づくりを市民とともに検討し、国や東京都に提案していく。
		「水辺のある風景」のPR	-	河川や用水を含めた、優れた景観スポットを市民から募集し、「水辺のある風景」としてPRする。
	水質の保全	水質の実態把握	水質調査・生物調査の実施	用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。
		水の浄化	水の浄化方策の検討	自然の持つ浄化作用を利用した河川や用水の浄化等、水質をきれいにするための方策を推進する。
	協働による水辺の保全・活用	流域連携による活動の推進	-	流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。
		水辺に親しむ活動の推進	-	用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さなどを伝えることのできる指導者の確保に努める。
		水辺の保全・管理活動の推進	-	用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行う。
3.ごみゼロのまち	リサイクルの推進	生ごみリサイクルの推進	生ごみや剪定枝の地域内循環の拡大	生ごみや落ち葉、剪定枝を堆肥化して利用する地域内循環を拡大する。

目標	施策の方向	施策(大区分)	施策(小区分)	具体的な取組
4.低炭素社会を築くまち	ごみ処理・資源循環システムの整備	ごみ処理施設の計画的な整備	廃棄物からのエネルギー回収の推進	地球温暖化対策の観点から、廃棄物発電の推進、焼却施設から発生する中低温熱の利用、廃棄物系バイオマスの利活用を検討する。
	省エネルギーの推進	家庭における省エネルギーの促進	「ひのっ子エコアクション」の推進	市民団体と市関連部署との連携により、各学校での「ひのっ子エコアクション」をさらに推進する。それによって、環境配慮行動を当たり前のようにできるひのっ子を育み、家庭での取組にもつなげていく。
		建物の省エネルギー対策の促進	「目野市エコひいきな住宅事業」の推進	環境と健康に配慮した住宅の仕様や「エコ街区」のPRにより、「エコひいきな住宅」の普及を促進する。
			東京都建築物環境計画書制度の推進	延べ面積2・000 m ² 以上のマンションについて、建築物環境計画書の提出及びマンション環境性能表示を推進し、環境配慮の取組を誘導する。
	地球温暖化の抑制	みどりと水のクールスポットの創出	—	市内のクールスポットを増やすために、みどりの保全・創出(生け垣の整備、庭の植栽、芝生化、屋上緑化、及び緑のカーテンなど)や水辺の保全とネットワーク化を推進する。
5.心やすらぎ住みよいまち	地球温暖化対策についての情報提供	情報提供の充実	地域資源を活かした新エネルギーの調査・研究	マイクロ水力発電や木質・農業バイオマスの地域利用(雑木林の管理や剪定枝回収などと併せて)など、地域資源を利用した新たなエネルギーの創出の調査・研究を行う。
	公害対策の推進	大気・土壌・地下水汚染等の防止	野焼きなどの焼却による煙害への対策	荒地の雑草などの野焼きや廃棄物の焼却処理を行わないよう指導を徹底する。農作業に伴う野焼きや伝統的行事等の焼却行為について、近隣とのトラブルを回避できるよう、正確な情報発信に努める。